

## 17.03.25 トランプ政権をどう見るか

エリエル・ラミレス、国家評議会所属アナリストとのインタビュー

1982年ハバナ市生まれ。2006年ハバナ大学文学部歴史学科卒業。国際関係学博士。現在、国家評議会所属国際関係アナリスト、特に米玖関係専門家として活躍中。著書に『米玖対決の分析』（2015年）など多数。

米国でトランプ政権が誕生したのは、アメリカの深刻な危機そのものを反映したものです。トランプは、非常に有能な補佐官を伴って選挙戦を優位に戦いました。選挙戦は人気のない、エリート層でエスタブリッシュメントのヒラリー・クリントンと国民の様々な不満をあおる富裕不動産王のトランプのどちらを選ぶかという選挙戦でした。



現在米国は、資本主義システムの危機の中にあります。ラスト・ベルト（錆びついた製鉄地帯）では伝統的に白人中間層、労働者が民主党を支持していました。しかし、ラスト・ベルトの自動車産業の不振、製鉄産業などの海外移転により、多くの失業者が生み出されました。それは新自由主義政策の結果もたらされたものです。全米的にも荒廃した農村部でトランプは支持を訴えました。トランプは、それらの矛盾を指摘し、偉大なる米国、アメリカ・ファーストに利益を追求して首尾

一貫しない論理で超国家主義、人種差別主義を掲げ、矛盾の「解決」を提起し、大統領選で勝利しました。システムは、危機になると常に新たな指導者を持ち出してくるものですが、それがトランプです。

トランプの政策は、反自由主義のように一見みられますが、結局は国内的にはより多くの雇用を掲げつつ、より多く搾取しより多くの利益を追求するものです。国際的には新自由主義と矛盾する利己主義的な保護主義も推進する新自由主義の改訂版といえます。バニー・サンダーが民主党の予備選挙で善戦したのも、新自由主義の結果悲惨な影響を受けている労働者の意見を代弁したからです。

トランプの政策は、全く新しいというものでなく、ブッシュ、レーガンの政策と似ているところがありますが、より保守的なものです。

トランプが、ツイッターを利用し、自分の意見に従わない既存の大手メディアを攻撃するのは、ネオ・ファシズムの揺籃期にあるともいえます。反対意見の封印、白人優先主義、人種差別、性差別、環境規制への反対などは、ネオ・ファシズム、超国家主義と呼んでよいと思います。トランプ政権の閣僚は、2か月しても確定していませんが、ウォール街（金融街）の経営者出身が多くみられ、とても支持を寄せて当選の支柱となった没落した中間層、あるいは新自由主義の結果もたらされた低賃金に悩む下層の人々の利益を追求する政権でないことは明らかです。同時に環境問題に反対しているのは、人類にとって危険なことです。

こうした右翼が国民の支持を得て勢力を伸ばしているのは、米国だけにみられる現象ではありません。イギリスの EU（ヨーロッパ連合）離脱の決定、フランスなどにおける右派勢力の伸長などにみられるように、世界的な傾向です。世界的な資本主義システムの危機、モデルの疲弊と考えられます。

トランプは、TPP は自国の利益ならないとして、撤退を表明しましたが、各国と二国間でより有利な条件で貿易協定を追究しようとしています。NAFTA も米国の利益を損なっているとして、改定を考えています。最大の親米国であるメキシコさえも、国境の壁の建設や NAFTA の問題で困惑し反感を強めています。トランプは、チリ、ペルー、コロンビア、メキシコで形成する太平洋同盟との関係を強化し、米国の利益に利用しようとしています。トランプ政権の政策で、米国内では階級闘争が激化するでしょうし、国際的には反動攻勢に激しい抵抗が生まれるでしょう。

トランプ政権に対するキューバの態度は、トランプ政権が、現在のところ移民問題、国内のオバマケアの廃止などの優先問題に政策を集中しており、キューバ政策で、もし民主化がすすめられれば、オバマ政権の決定を覆すといっていますが、なんらの具体的な政策を実行していません。当面現状維持ばかり、圧力を強めつつ来年2月の国家評議会選挙後、革命元勳世代が引退しどういった新たな指導部が形成されるか見ているところだと思います。

米国が国連において対キューバ経済封鎖解除決議に再び反対に回るかもしれません。それは重要な事件となりますが、キューバに大きな影響を与えるものではありません。来年度は、米州首脳会議が開催される年です。この会議開催に関してトランプ政権がどういう態度をキューバに取るか注目されます。オバマ政権が決定した政策は大統領令によるもので、トランプ政権も大統領令で解消することは可能ですが、多くは米国の雇用を生み、利益に合うもので、それを解除することは、米国民、議会の反対を受けて難しいと思います。キューバは、トランプ政権が具体的にどういう政策を取ってくるか見守っているところです。

こうした状況の中でラテンアメリカの左翼は、それに対抗する対案をもたなければなりません。より右傾化が進行しているからです。

キューバの役割は、CELAC、ALBA、AEC などを通じてできるだけラテンアメリカの統合と団結を図り、各国の経済発展を保障することです。またブラジル、ロシア、インド、中国、南アの BRICS が発展することを期待しています。キューバは、トランプ政権に対し、対等、相互尊重、主権の尊重の原則に立っていつでも対話を行う用意があります。